

HGG002-03

会場: 202

時間: 5月25日09:27-09:38

アラからみたブータンの村落社会と国家

Rural societies and state in Bhutan seen through local brewed alcohol, Ara

宮本 万里^{1*}

MARI MIYAMOTO^{1*}

¹北海道大学

¹Hokkaido University

ヒマラヤ地域の東端に位置する仏教王国ブータン。この国は、最後のチベット仏教王国、あるいは幸福大国などとして知られる一方で、長年の鎖国的な政策により、インドやネパール、チベットなどの周辺諸地域に比べてその社会構造や人々の慣習、生活等についてはあまり知られてこなかったといっているであろう。標高6000-7000メートル峰の連なる北部の寒冷地帯から標高300メートル以下の丘陵地帯が広がる南部まで、南北方向におよそ6000メートル以上の標高差のある国土は、ヒマラヤ山頂から流れ出る河川によってさらに縦横に削り取られ、多様な生態系を作りだしている。そしてブータン国内の村落社会に目を向けると、それらの多様な植生や気候に応じた異なる生業形態が見て取れる。

例えば、ブータン中西部の中間山地が温暖で湿潤な気候によって豊かなコメ作地帯を形成する一方で、北部国境に近い寒冷な高山地帯ではヤクの飼育と小規模な麦の栽培によって生計が立てられてきた。また、インド国境に近い丘陵部では地の利を生かし、オレンジやカルダモンなど多様な商品作物が栽培され、その収入によって穀類を得ている者も多い。しかし、こうした栽培作物の違いにも関わらず、ブータン国民の食生活には多くの共通項が見出されるとされ、その代表的なものとしてしばしばコメとトウガラシとチーズを基本とした食生活があげられる。

実際に、特に西ブータンではトウガラシのチーズ煮込み（エマ・ダツィ）を主菜として山盛りのご飯を食すというのがどこでも見られる風景ではある。しかし、発表者はここで、地域を越えてブータン社会を結び付けていくもう一つの慣習に注目してみたいと思う。それは、時に食用と同量の穀物および情熱を注いで作られてきた自家製酒アラの蒸留である。特に中央ブータン以東の地域では、アラは土着の儀礼から仏教の法要、様々な通過儀礼や催事において、神々への供物や客の饗応のために不可欠だと考えられてきた。特に村落地域においては、アラやバンチャン（濁酒）なしにはどのような儀礼も進められず、もてなしも成立しないような形で社会のなかに深く組み込まれている。

他方で、ブータン国民に広く根付く飲酒の習慣全体を見渡すと、それは同時に政府によって肝臓病や家庭内暴力など深刻な問題を引き起こす元凶として認識されており、飲酒の規制について一定の政策が実施されてきた。例えば、毎週火曜日を酒類の販売を禁じるDry Dayとする政策があげられる。飲酒とそれが引き起こす暴力や無秩序がいかに切実な問題として捉えられているかは、国の重要な行事、たとえば2008年の選挙時に実施された政策をみても明らかだ。政府は選挙当日をDry Dayとする旨を全国に通知し、投票時間帯はもちろん、選挙結果が全て出揃うまで酒の販売を禁じるとしたのである。帯刀の習慣が広く維持されているブータン社会では、過度の飲酒が突発的な殺傷事件に結びつくことも稀ではない。こうした点からも、勤勉で規律化された市民による近代的な国民国家の形成を望む政府にとって、飲酒の習慣は撲滅すべき悪習として問題化されてきた。

しかし、政府が酒店での自家製酒の販売を禁止しているため、こうした規制が対象とするの

は、実際のところ政府の管轄するArmy Welfare Project(AWP)をとおして製造・管理された酒製品のみであった。AWPをとおした酒類の販売に伴う税収は政府の歳入でも重要な割合を占めており、政府は数少ない税収源であり同時に社会問題の元凶である酒販売について難しい対応を迫られているといえるだろう。そのなかで政府にとって都合のいい排斥対象となっていたのが、村落社会における自家製酒の醸造であった。

都市部から遠く離れた村落社会において、過度の飲酒に伴う社会的弊害がことさら問題化されることは稀である。土着の神々に捧げることで共同体の安定や繁栄を担保し、成員間のコミュニケーションの潤滑油として機能してきたアラやバンチャンの醸造を人々に放棄させるためには、それに見合うだけの対価が提示されなければならなかった。そして、引き換えに得られる価値とは、政府の政策傾向や人々の要請に合わせて交渉可能なものとして開かれており、経済開発や森林育成などの多様な価値との日常的な競合過程のなかにおかれている。したがって、本発表では、村落での酒造りに対して政府がどのような規制を試みているのか、そして人々の生活世界における自家製酒の価値と役割はどのような形で変遷しつつあるのかを、国家の政治や経済政策、あるいは個々の地域の生業や慣習、そして信仰等複数の要素に目を配りながら重層的に描きだしていきたいと思う。

キーワード:ブータン,酒,軍隊福利プロジェクト,村落社会,開発,文化の政治

Keywords: Bhutan, liquor,, Army Welfare Project, rural societies, development, cultural politics